

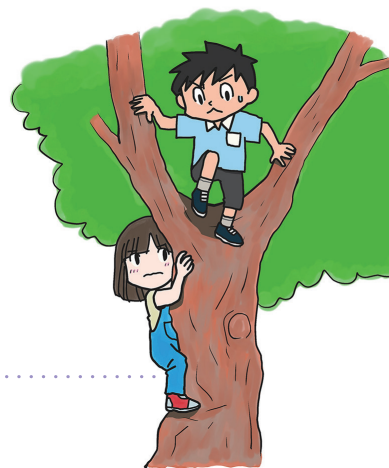
特集

子どもの「遊び」を考える

ベネフィット・リスクアセスメントで価値ある「遊び」を

「難しいことに挑戦する」ことの大切さ

子どもの成長や発達のために、自由で自発的な遊びを通して「難しいことに挑戦する」ことの大切さについては、2000年以降から英国で提唱され始め、現在その潮流は世界中に広がっています。子どもたちは遊びの中で様々な事を経験し、自己の限界を探りながら心身の能力を高めます。したがって、遊び場は子どもたちにとって刺激的で、魅力的で、楽しくなければ、どんなに安全であっても失敗だと言えます。しかし一方で「難しいことに挑戦する」ことによって生じるリスクには、成長・発達に利益をもたらす「ベネフィット・リスク」だけではなく、受容できない危険性「ハザード」が存在します。今回は子どもの遊びの特徴を考えながら、子どもの健全な成長をサポートする「ベネフィット・リスクアセスメント」を考えます。



子どもの「遊び」の役割と特徴

① 子どもにとって「遊び」は学び

様々な環境で自由で自発的な遊びを行うことは、子どもたちのこころとからだの発達にとっても重要です。からだに関することでは運動能力、危機回避能力等が培われ、こころに関することでは知能検査などで測れる認知能力だけでなく、非認知能力^{※1}や生きる力^{※2}を培います。また、遊びの中で成功や失敗の経験することで「できること」と「できないこと」を学び、困難な状況から立ち直る力、レジリエンス^{※3}を身に付けます。これらの力は、積極的に豊かな人生を送るためにとても重要です。

※1 非認知能力

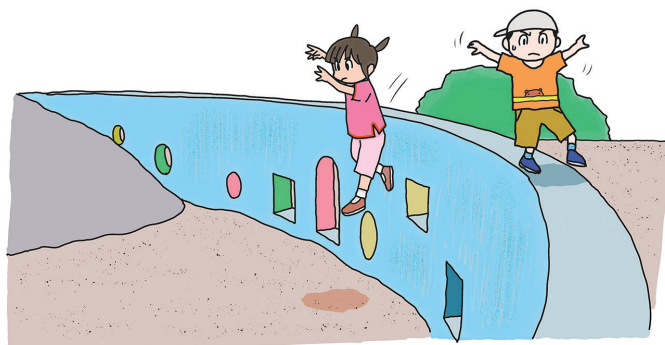
意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった、IQなどでは測れない内面の能力のこと。

※2 生きる力

変化が激しく、新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる複雑で難しい次代を担う子どもたちにとって、将来の職業や生活を見通して、社会において自立的に生きるために必要とされる力。

※3 レジリエンス

人間関係、経済、健康などに関する逆境、トラウマ、悲劇、脅威などから起こるストレスにうまく適応する力。



② 子どもの「遊び」はチャレンジ

3-5歳の幼児期は屋外の遊びが大切です。特に冒険的な活動には、男児に限らず女児も参加します。新しい遊びを自分で見つけながら学ぶことは、自信と満足につながります。5-9歳の子どもは多少安全に配慮した行動が取れるようになりますが、自身のスキルの限界を十分には理解できていないため失敗も繰り返します。しかし子どもたちはチャレンジを欲しており、過保護すぎる環境には退屈してしまいます。ある程度の危険を孕む遊びに挑戦する中で自分の能力を知り、危機回避能力を学ぶことが必要です。周りの大人たちは、危険を強調しすぎて「遊び」の楽しさを奪わないようにしましょう。

③ 受容できない危険性「ハザード」の存在

一方で、子どもが予測管理できない、遊びの価値と無関係で重大事故につながる、受容できない危険性が遊びの中に存在することがあります。これを「ハザード」と言います。そして、「ハザード」を遊び場から取り除くことは、国土交通省「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」や当協会の「遊具の安全に関する規準」で示されている通り、遊び場に関わるすべての人たちが協力して取り組まなければならない重要課題です。その為には、想定されるリスクが受容できる「ベネフィット・リスク」か、受容できない危険性「ハザード」なのかを正しく評価する必要があります。



ベネフィット・リスクとハザードを可視化し評価するには

詳しい内容は裏面へ

ベネフィット・リスクとハザードの評価

ベネフィット・リスクアセスメント(便益と危険性の総合評価)

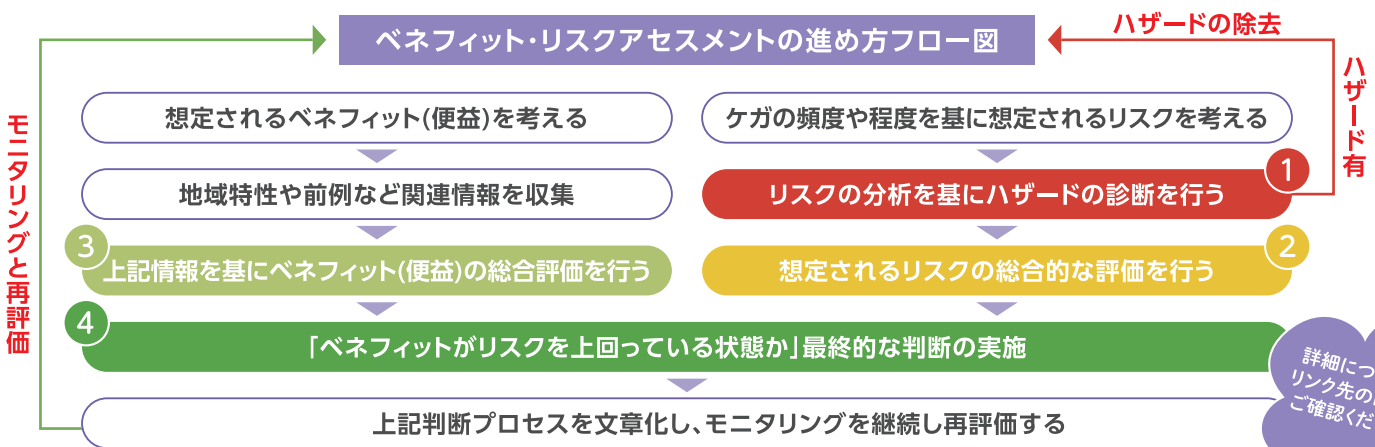
ベネフィット・リスクアセスメントの手順は次の通りです。

- 1 ハザード診断**
過去の事故事例(消費者庁)や「遊具の安全に関する規準」(JPFA)などを参考にして、想定される事故やケガを明確にしましょう。
- 2 リスクの総合評価**
想定された危険性がハザードなのかリスクなのかは、対象とする子どもの年齢層(幼児か児童か)や管理者・指導者の有無によっても変わります。その上でハザードと判定した危険性は具体的に取り除きましょう。
- 3 ベネフィットの総合評価**
リスクとして残すべき危険性であると判断したら、その危険性により得られる便益(ベネフィット)の評価をします。
- 4 最終的な判断の実施**
そのベネフィットを得るために必要な安全対策等を検討することになります。安全対策は工学的対策ばかりでなく、オペレーション(大人の監視体制、子どもへの保護具の着用の有無、訓練された指導者の有無など)の対策も含まれます。ベネフィット・リスクに該当する事象のなかには、子どもたちだけで使わせるとハザードになりかねないものがあります。実際の利用状況をモニタリングして、子どもの年齢に合わせた、大人の適切な関与と再評価をするようにしましょう。

多様な危険性のカテゴリーとベネフィット・リスクアセスメントとの関係

原案:大坪 龍太、杉村 伸一郎

| | | | |
|----------------------|-----------------------------|----------------|----------------|
| 遊びのリスク全体 | ←————→ | | |
| 危険性のカテゴリー | ←————→ ベネフィット・リスク | 中間のリスク(グレーな領域) | ←————→ ハザード |
| 事故・ケガ | 擦り・切り傷(軽傷) | ←————→ | 重大事故(重傷) |
| 子どもの予測・判断 | 判断出来る危険性 | ←————→ | 判断出来ない危険性 |
| 便益・効用の有無 | 便益・効用がある | ←————→ | 便益・効用がない |
| 受容可能性 | 受容できる危険性 | ←————→ | 受容できない危険性 |
| ベネフィット・リスクアセスメントとの関係 | ③ ベネフィットの総合評価 | ② リスクの総合評価 | ① ハザード診断 |
| | ④ ベネフィットがリスクを上回っているかバランスの診断 | | |



「遊び」に内在する危険性から得られる便益を最大化するために、危険性の適切な評価と具体的な安全対策を心掛け、子どもたちの成長・発達に貢献するように、遊び場の価値を高めましょう。

